

アジア経営学会第 11 回全国大会（2004 年立教大学）統一論題趣旨

統一論題：アジア企業の国際競争力とコーポレート・ガバナンス

――アジアの特殊性と共通性――

統一論題趣旨：

21 世紀の世界経済を大きく左右するであろう中国、および韓国、台湾、シンガポールをはじめ東アジア諸国企業の国際競争力をどのように評価すべきかが重要な研究課題となってきた。

その際、グローバリゼーションの進展と共に、事業展開を国際的に展開しているアジア諸国の企業は国際基準に適合したコーポレート・ガバナンスを意識するようになってきた。同時に、各国企業は固有のコーポレート・ガバナンスのもとで独自のイノベーション・システムの構築にも積極的に取り組んでいる。そこで第 11 回大会では、統一論題のテーマとして「アジア企業の国際競争力とコーポレート・ガバナンス」とした。

さらに、サブテーマ 1 では、こうした東アジア諸企業の国際競争力の源泉とその多様性を主として取り上げる「アジア企業の多様性と国際競争力」とした。そこでの多様性とは、その企業の競争優位の源泉がどのようなナショナルなレベルでの特殊性とアジア的共通性を有しているかに留意する。そしてサブテーマ 2 として、アジア企業のコーポレート・ガバナンスがどのような企業（組織）文化ないし National / Regional Culture と関連しあいながら創り上げられているのかを主として取り上げる「アジア企業のコーポレート・ガバナンスと企業文化」に設定した。